

風と恋

の優秀句を表彰

今年で五回目を迎えた「風と恋の俳句コンテスト」の表彰式は十一月四日、町総合センターで開かれ、入賞者ら百十人が出席しました。昨年を一千六十四句も上回る八千七十六句の中から入賞した四十四人と団体賞の六校に賞状や楯、町特産品が贈られました。受賞者は、句に込めた思いや情景などを発表し、選者の俳人・黛まどかさんの講評で俳句への興味をさらに深めました。入賞作品は、次のとおりです。

テーマ	部門	投句数
風	一般	2,243
	高校生	707
	中学生	1,153
	幼・小	814
	計	4,917
恋	一般	1,605
	高校生	579
	中学生	678
	幼・小	297
	計	3,159
合	計	8,076

●最優秀賞 (風・恋 各一句)

風 呼び声の風となりゆく磯遊び
大鹿 正男 (大阪府)

恋 恋ほたる風のふし目に光りけり
岡 白雲 (東京都)

●優秀賞 (風・恋 各三句)

風 とんぼうに風のきれいな目なりけり 竹澤 聡 (神奈川県)
風止んでも恋のプランコ揺れている 橋立 英樹 (新潟県)
この町のこの風が好きおにやんま 津留 春男 (愛知県)

恋 どんぐりをくれしが恋のはじめかな 千葉 蒼石 (青森県)
初恋をげんげの花で編み上げぬ 今井 忠雄 (静岡県)
指切りの指うつくしく糸編む 高橋 成知 (群馬県)

●特別賞 (岩手日報社賞)

風 風鈴や机一つの駐在所 塚野 忠男 (洋野町)
恋 彼の人の便りもあらむ落とし文 村木 登 (田子)

●団体賞 (小学校・中学校・高校の部 各部門一校)

〔最優秀校〕▽葛巻小学校▽久慈中学校 (久慈市) ▽豊科高校 (長野県)
〔優秀校〕▽江刈小学校▽葛巻中学校▽盛岡商業高校 (盛岡市)

●奨励賞 (風・恋 各十二句) 町関係者のみ紹介

恋 砂の城二人でつくったたからもの 上道 優美 (江刈中一年)
天国のキミに捧げるこの花火 川下 幸寛 (葛巻高三年)

表彰式に出席した入賞者の皆さん



●黛まどか町民特別賞

- 夏空に発電風車風を汲む
ソーダ水よく冷えてより風絶えず
放牧の牛の背なでてやませ吹き
山の陽と風に干さるる瓢かな
コスモスが風のリズムで踊ってる
君の頬見えかくれする夏暖簾
ブラウスの白さと君がまぶしくて
失恋の涙くすぐる花菜風
春になり離れてわかる恋心
もう逢えぬ人かもしれぬ遠花火
- 中代キミエ (茶屋場)
入月美穂子 (田の沢)
高澤 安男 (大沢)
江波 静枝 (下町)
長朶 公子 (山岸)
福田 信博 (四日市)
小原 真一 (田子)
大川原百恵 (小苗代)
櫻田 慎 (田子)
入月 静子 (橋場)



十一月四日の午前、黛まどかさんと巡る吟行会が開かれました。澄んだ秋空の下、約四十人が平庭高原の白樺林や袖山高原の風力発電施設の周りを散策し、お気に入りの句に練り上げました。参加した小学生は、黛さんから俳句の作り方を学び、浮かんだ言葉を指折り数えながら楽しそうに句を詠んでいました。特選の句は、村木登さん (田子) の「木の実落つほか音のなし塩の道」。吟行会にも参加した俳句コンテスト最優秀賞の岡白雲さん (東京都) は「次は仲間を連れて訪問したい」と話していました。

俳句で文化の薫る町づくり

五・七・五でふるさと再発見!

■優秀句は俳句の小道へ

俳句コンテストは毎回、最優秀賞と優秀賞の句碑が地場産材に刻まれ建立されています。袖山高原に「風」、道の駅くずまき高原に「恋」の句碑が小道に並び、訪れる人の目を楽させています。



風の句碑が建ち並ぶ袖山高原

■見慣れた風景の中に「宝」を再発見

俳句を始めてから見慣れた風景や何もないと思っていた地域にたくさんの「宝」があったことに気付いたという人たちがいます。今回、風の句で町民特別賞を受賞した中代キミエさん (75歳・茶屋場) は2年前から俳句を始め、葛巻俳句会 (高家卓範会長、会員27人) にも入会しました。「年をとってからの俳句作りですが、字を辞書で調べたり書いたりするのも楽しみの一つ」と月1回の投句を楽しんでいます。

■子どもたちの豊かな感性を磨く学校の取り組み

町内の学校では、俳句作りを通じて子どもたちの豊かな感性に磨きをかける機会を増やしています。江刈小学校 (成田不美校長、児童40人) では、全校俳句会などの活動やコンクールへの応募など児童の活躍の場を広げています。同校の中六角彩花さん (4年) は神奈川県湯河原町主催の湯河原文学賞俳句部門で優秀賞を受賞。新潟県上越市主催の俳句大会では角地健希君 (4年) の選者賞を筆頭に8人が佳作。上廣倫理財団主催のりんり俳句大賞では角地美桜さん (2年) が銀賞、大上悠莉さん (3年) が銅賞、埼玉県久喜市のコンクールで9人が入賞と大きな成果が表れています。

吉ヶ沢小学校 (佐藤晃校長、児童10人) では、俳句教室を開いたり、毎月、投句数の多い児童を表彰するなど俳句作りへの興味と楽しさを引き出しています。

■黛まどかさんから力強いエール

今では第2の故郷といえるほど葛巻の人や自然に魅せられているという俳人・黛まどかさんは「子どもたちが短期間に大きな成果を上げているのは、年間を通じた取り組みによるもの。これからも、すすくと成長して文化の薫りを発信してほしい。葛巻町が21世紀の歌枕の地となっていくことでしょう」とエールを送っています。